



出会う、つながる、わかちあう 2018年4月発行

山梨県 桃の会 会報第43号

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

E-mail : meri-sannokuni@softbank.ne.jp HP : http://momonokai.org/

お問い合わせ

TEL/FAX/☎

0554-66-4073

090-6190-8677

桃の会事務局

桜が満開です。華やかなこの季節になると、何故か力が湧いてくるような気持ちになります。スタートにふさわしい季節なのでしょう。桃の会も仕切り直しをして、自助会としての認識を深めつつ、自助会だから出来ることをひとつひとつやっていきたいと思います。私達の苦しみ、悲しさ、悔しさ、その思いが沢山詰まった力ほど、人の心を揺り動かす尊いものはありません。今私達はこの社会に必要とされている存在なのです。

一人でも多くの方が、このスタートラインにお集まりくださいますように！！



4 月月例会

「発達障害について」

講師 大橋史信氏 (37 歳)

元当事者、20代でひきこもり、家族との確執を経験、33歳の時に軽度精神遅滞付き大人の発達障害と診断される。現在はピアサポーターとして当事者や家族等の相談支援に従事している。

〈日 時〉 4月21日(土) 13:30~16:30

〈場 所〉 山梨県福祉プラザ 4F 会議室 (055-254-8616 甲府市北新 1-2-12)

〈参加費〉 一家族 1,000 円 (当事者は無料)

〈内 容〉 ご自身が発達障害であり、生きづらさを経験された中から当事者ならではの話しが沢山お聞き出来ると思います。皆さんからのご質問にも的確にお答え頂けると思います。

◆ 終了後グループトークをします。

☆《当事者スペースも開いています》

〈日 時〉 4月21日(土) 13:30~16:30 パソコン室

“お花見はしたけえ! 春真々盛りだね、次々と花が咲いて自然の息吹が身近に感じられるね、いっぺん出てこうし”



《ミニグループトークの御案内》

〈日 時〉 4月22日(日) 10:00~12:00 山梨県福祉プラザ 4F 会議室

2日続けての開催で大変ですが、お付き合いを願います。

ここだけの話で気分転換、心をはかるくしましょう! お待ちしております。 ❀ 参加費 500 円

☆ピアサポート (個別家族支援) を行っています。

「つながり」は家族の孤立を防ぎます。まず、第3者の風を!



グループピアサポートをしています。

4、5人(桃の会ピアサポーター2名含む)で話をします。リラックスした雰囲気の中で個々の状況をより把握し、継続的に関わる事が特徴です。 (詳しくは篠原迄)

桃の会はスーパーバイザーとして、[京都オレンジの会

山田孝明さん]を後ろ盾に、充実したサポートを目指します。

3月月例会報告

3月18日(日) 13:30~16:30

「親と子供のひきこもり大学」をテーマとして、元当事者(子供)・元当事者であり現在臨床心理士(専門家)・親、それぞれの立場の方から、今まで感じた事・今感じている事・心の中にある様々な思いを話していただきました。印象に残ったことのみを報告ですべてをお伝え出来ず、わかりにくい内容となってしまいましたが、親と子供が一緒の場で語り合えるいい機会であったことをお伝えしておきます。



元当事者(子供の立場) 田中雄一さんの話

- *元当事者で現在は就労しているが、就労をすればそこで引きこもりが終わりになるのではなく、働いていても引きこもりを脱したとは思っていない。
- *働いていても助けてほしいと思っていることを知ってほしい。心が折れそうになることはある。
- *親も何かできるのではないかと考えてほしい。

元当事者(子供の立場・専門家の立場) 中村友一さんの話

- *子どもは親が自分の人生をどう生きているかシビアにみている。自分(親)が自分の人生をどう生きているかその姿を子供に見せることで子供が見習い説得力にもなる。
- *視点の切り替え、人からどう見られているかから子供は何を求めているかを理解する。
- *ささやかな一歩を踏み出すには大きなエネルギーがいる。その一歩を踏み出すために、小さな成功体験や自分をほめる等々積み重ねていく。

親の立場 大城さんの話

- *娘のために今が親の踏ん張り時、一筋の光を見つけるべく生活の切り返しをはかるまでに至った親の覚悟(30年という長期間に渡り引きこもっていた娘の様子、親の限界、同意のないまま半ば強制的に病院に入院させた娘に対する親の気持ちそして病院とつながった経緯を踏まえながら)を語ってくれた。

*3人の講師の方々に感謝を込めて!

人前で話すことは勇気と覚悟がいることです。それぞれの立場、状況の中からとても印象深い言葉や思いを私達に残して下さいました。

「一度心が折れるともう元に戻れない」彼の日々生きる事の苦痛がにじみ出た言葉でした。

「親が自分の人生を生きているか」…「子供の自立」を願う私達に「親の自立」を問われました。

中村さんの臨床心理士としての経験と元当事者の立場からの的確で分かりやすい提言が沢山ありました。

御家族でさんざん悩み迷われ、30年と言う年月を経てようやく初めて娘さんが家を出られたこと。御家族で、必死で覚悟を決め決行された行動力には拍手です。父親である大城さんの心は複雑な思いが入り混じり涙ながらのお話しでした。親として子供を思う気持ちがひしひしと伝わってきました。

ひとつひとつの言葉を心に止めてそれを噛み砕いて心の肥料にしたいと思いました。

有り難うございました!

(HA) (sino)

(今回、県の障害福祉課の課長さん、県議会議員さんにも見学して頂きました)

✿当事者スペースの報告✿

2018年3月18日(日)

○時間 午後2時～4時50分

○場所 福祉プラザ1階パソコン室

○参加当事者、経験者 4人

○スペースの内容

・好きな事、嫌いなこと、困ったときの対処

○感じたこと

・継続して出て来ている方の表情、言動が少しずついい方向へ向いていると感じる。

(田中)



✿ミニグループトーク✿



3月25日(日) 10:00～12:00

某新聞の人生案内の投稿を資料にして、子供が親の元を飛び立って行く為に必要な事、「もし、親が子供を飛び立てなくしていたら…」という視点から考えてみました。

資料の内容は「30代の息子が自立しようと親から離れていくのが、とてもむなしくさみしくてしょうがない、これからどのように生きていけばよいか」というものです。

子供の自立は喜ぶべきことで親はその寂しさに耐えていかなければならない、子供を信じ子供の手を離そう、親がまず自立する、動物の子別れから学ぼう、夫婦の良好な関係、など沢山の意見を出し合いました。私達親は「あなたの事をこんなに思っている事を分かってよ」と子供に理解を求める傾向が強いのかもかもしれません。その反対に子供の思いを分かろうとすることに意識が薄くなっているのかもかもしれません。

「親の心子知らず」という言葉はありますが「子供の心親知らず」と言う言葉も必要かもしれません。子供の事を思いやっていると信じていることを今一度振り返って子供の自立の妨げになる事を捨て去る勇気と覚悟を持つ事、そうすることによって私達は親としての自立を遂げていくのではないかと思います。子供が親から離れ巣だっていくのはとてもさみしく辛い事であるかもしれません。しかし子供の巣立ちは子育て最後の試練、そして親としての、一人の人間としての大きな、大きな喜びで親と子供に人としての成長を促してくれるものと思います。

ただ、無為に過ぎていく時間にピリオドを打つのは私達親の勇気と覚悟であることは確認できたと思います。

(sino)



【農園でギャザリングしよう!】

◆市民農園・・・1区画 55㎡(約17坪) 1年間 6,000円

◎ 場所：甲府市七沢町 友達、家族などで一緒に畑で過ごしませんか？

◆みくさのみたから・・・ストレスなどで凝り固まった心身を解放するワークです。

◎ 日時：4月26日(木) 14:30～18:00 参加費：400円、終了後お茶会

◎ 場所：富士河口湖町勝山ふれあいセンター和室

◆申し込み・問い合わせ・・・相良(さがら)農園 055-243-0261



〈すみれ会 4月の予定〉

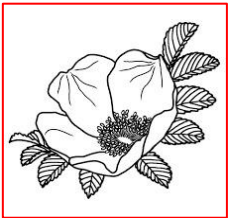
◇月例会 ・4月21日(土) 13:30～15:30 場所：すみれ会事務所

・月に一度は心の思いを吐き出しましょう、皆様のご参加をお待ちしております!

〈このコーナーのお問い合わせ〉090-5416-8748(清水)



二人はハマナスの花となって生まれ変わる、きっとそうにちがいない！



北海道新聞のニュースが届いた。82歳の母親と50歳を過ぎた娘さんとが札幌市内のアパートで衰弱死していたと報道されていた。いわゆる8050問題として支援対策の急務として記事が大きく書かれていた。私はぼんやりとこの2人の人生の歩みを考えてみたいと思った。何一つ私は詳しい情報を知らないが、2人がアパートの一室でまるで植物が朽ち果てるかのように亡くなら

れた事実だけで充分だった。思いをはせるという人間的な気持ちと人間の営みと寄り添っている文学的な要素があれば誰でも理解できるだろう。

かつて、村々にある家のかまどから煙が立ち上ってないのを見て為政者は人々の生活が病弊していると感じとったものだ。もしあなたが行政的な立場でいればこれはとても大切な感性だろう。

20年前奥山氏（初代KHJ全国家族会代表）とともに全国に家族会の設立を呼びかける活動をした。呼びかけに応じて参加したご家族は孤立せずにつながる事ができたのです。しかしその当時推定実数70万と言われて私たちが組織化できたのはほんの一握りの人数でした。京都の夜、奥山氏と酒を酌み交わすときは、いつも「10数年後には取り残された高齢化した親子が誰にも知られずに餓死しているときがやってくるね」と語り合ったものでした。残念ながら私たちの声は届かなければならないところに届きません。新聞紙上では対策の急務が叫ばれていますが、正直にいいます、もう手遅れです。現場を知れば知るほど手遅れだと感じています。30年間子供を抱え続けた親の気持ち、30年間誰とも心を通わせることなく孤立し続けた当事者の気持ち。だれが二人に寄り添うことできるのだろうか？考えるだけで気が遠くなる。実は「葬送曲」を奏でなければならぬ時代となったのである。死はかならずやってくる。だからこそ死者たちが生きた人生に敬意を表さなければなりません。魂を鎮める「葬送曲」が必要となった。これから先も、このような死者を見送ることはこれからも30年あるいは50年続くだろう。今日、20代30代の引きこもる若者たちの行政支援をみればさらに絶望せざる得ない現実がある。支援から落ちた若者たちがますます高齢化するだろうから。

いま、もう一度「沈む日本を愛せますか？」と言った作家の言葉を思い出して考えてみた。

（桃の会 スーパーバイザー）【ハマナスの花は北海道の浜辺に咲く花】

～桃の会今後の活動予定～

2018年（H30）

- | | | | | |
|------------|---------------------|-----------------------------|--------|------------|
| *運営委員会 | 5月12日（土）10:00～ | *学習会 | 13:00～ | 福祉プラザ PS 室 |
| *月例会 | 5月20日（日）13:30～16:30 | <u>ぴゅあ総合</u> | | 2F 会議室 |
| 当事者スペース | 2F 工芸室 | ※5月月例会はぴゅあ総合になりますのでご注意ください。 | | |
| *ミニグループトーク | 5月27日（日）10:00～12:00 | 福祉プラザ | | 4F 会議室 |

■お知らせ

[NHK 厚生文化事業団製作]によるDVD「ひきこもりからの回復」全3巻（非売品）をお貸します。ご家族でゆっくりご覧になりたい方はお申込み下さい。（2セット用意、先着順、無料です）